

## 日韓共同シンポジウム参加報告

農地基盤工学研究領域 用水管理担当 坂田 賢

2011年10月4日、5日に韓国アンザン市にある韓国農業公社農漁村研究院で「気候変動と災害への適応策」と題したシンポジウムが開催されました。当所からは6名が参加いたしました。

シンポジウム開催に先立って、農漁村研究院長を表敬訪問し、研究院の研究体制や周辺環境についての説明を頂きました。当所からは、東日本大震災発生直後に研究院から被災地に義援金を頂いたこと、および、今回の招待に対し、団長の増本隆夫上席研究員が深謝の意を伝えました。

シンポジウムでは、当所から、津波被害概要、低平地被害予測、広域水配分モデルおよび稲の高温障害発生に関する話題提供を行いました。韓国側からは、貯水池の危険度評価、農業施設の経済設計、気候変動を勘案した設計基準および廃棄物処分場の安全管理に関して講演頂きました。韓国側の東日本大震災に対する関心は非常に高く、沿岸域の防災や今後の復興方針に関する質問が数多く寄せられました。

また、シンポジウムの合間に、干拓事業地域の再現模型が設置されている水理実験棟を見学しました。貯水湖の水質改善が課題の一つとの説明とともに、課題解決のための共同研究の打診を頂きました。

10月7日には、Baek Gok ダム（堤長：410m、堤高：27.2m、貯水容量：2,175万 $m^3$ ）を視察しました。当ダムでは、①現在親水空間としての役割を強化するための再生事業を大統領の強い指導力の下で推進していること、②併設する小水力発電（430kw×8機）により一定の収益を確保していること、③経営移譲直払い制度により農家あたりの規模が拡大したことなどを、管理事務所長より丁寧に説明頂きました。



シンポジウム前の表敬訪問にて Chung 農漁村研究院長より研究院概要の説明



韓国側事務局の Kim 研究員より冒頭挨拶（テーブル右側手前が当所の参加者）



Lee 管理事務所長（左から2番目）よりパネルを用いてダム再生事業の説明